

荻窪病院だより

医療法人財団 荻窪病院 広報誌

2024 年 7 月 26 日発行

発行責任者: 布袋 祐子

企画/編集/印刷 地域連携室

〒167-0035

東京都杉並区今川 3-1-24

代表 TEL:03-3399-1101

地域連携室直通:03-3399-0257

二人にひとりはがんとを経験する時代。
「症状が出る前」や「小さながん」で見つけられることが、
健やかな暮らしにつながります。 — 消化器内視鏡検査のすすめ

最新のデータ※では、日本人が一生のうちになんと診断される確率は50%—二人にひとりであり、罹患数では1位が大腸がん、3位が胃がんとなっています。多くの人がかかる疾患ですが、この2つは内視鏡検査を受けることで早期発見・治療ができるがんと言われています。

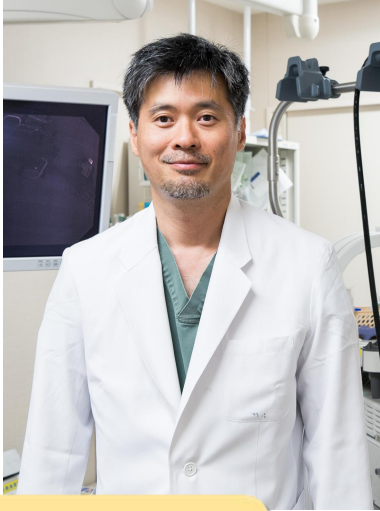
部長の中村医師に内視鏡検査の有用性について聞きました。

症状が出る前の定期的な検査ががんを防ぐ

—まず、最近の胃がん・大腸がんの動向について、感じられることを教えてください

区健康診断で胃カメラが選択できるようになり、早期発見につながっているのか、以前ほど診療で胃の進行がんは見られなくなりました。胃がんの原因である

ピロリ菌除去の治療や、減塩の指導が進んでいることもあるでしょう。一方で食事の欧米化から大腸がんは増えてきています。



93年慶應義塾大学卒業「がんになることと、がんを落とすことは別。バランスのよい食事と一万歩くらいの運動を心がけ、身体に抵抗力がついていれば、病気をしたときの回復力が違いますよ」。取材時（夕方時点）の万歩計は7359歩。

内科部長／消化器センター長／
内視鏡センター長代行
中村 雄二 なかむら ゆうじ

—これは必ず内視鏡検査を受けた方がいい、という症状はありますか？

がんの場合、症状が出てきた時にはだいぶ進行していることが多いので、症状が出る前に見つけられればいいですね。50歳を過ぎたら、2年に一度の胃カメラ、5年に一度の大腸カメラの検査がすすめられます。

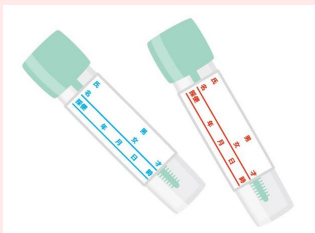
—これは必ず内視鏡検査を受けた方がいい、という症状はありますか？

—これは必ず内視鏡検査を受けた方がいい、という症状はありますか？

定期的な検査を行っていれば、がんになる前のポリプ（腺腫）の段階で切除が可能です。また、がんが見つ

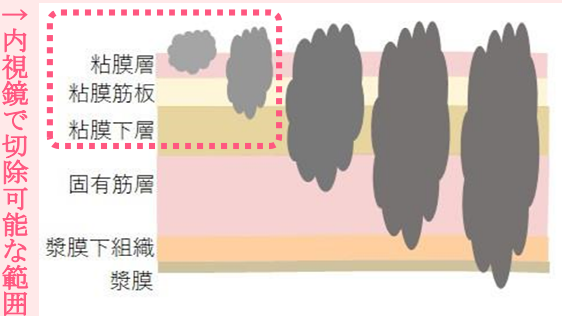
—これは必ず内視鏡検査を受けた方がいい、という症状はありますか？

放っておかないで！
「便潜血陽性」



「大腸の粘膜のポリプやがんは、悪性度が高いほどそこから出血をおこしやすくなります。検便の検査は、この出血の有無を診ており、病変を示すものなので、便潜血陽性が出たら、2次精査である大腸カメラを必ず受けてください」と中村医師。肛門からの出血であることも多いですが、発見が早ければ、ポリプや「小さながん」ですむので、臆さず検査しましょう。

「小さながん」ならば、内視鏡で切除可能



胃や大腸の粘膜は図のように層になっており、がんがどの層まで達しているかで治療法が違ってきます。粘膜下層に少ししかかかるといふ程度ならば、ESDという内視鏡による施術で切除が可能です。それよりも下の層に達してしまうと、外科での手術が必要になってきます。

小さながんで治療する「消化器内視鏡検査」

ですが、粘膜表面までののがんが対象になります（左図）。早期に発見できれば、治療も身体に負担の少ない方法で行えます。

「抗がん剤も不要でしょうか？」

内視鏡での切除後、がんが取り切れたかどうかの病理検査を専門の医師が行います。その検査で取り切れたという結果が出れば、化学療法（抗がん剤）はやらずに治療は終了です。

「もしもがんが取り切れていなかったら？」

化学療法や放射線療法、外科の手術での治療になります。

す。最近では、切除したがんの遺伝子異常を調べて、がんのタイプにあった薬物療法も行われています。

荻窪病院でも、胃がんではHER2（ハーツ）とMSI（エムエスアイ）、大腸がんではRAS（ラス）の遺伝子異常の検査を行っています。遺伝子パネルというたくさんの遺伝子の異常を調べる場合は、がん診療連携拠点病院に紹介をしています。

「内視鏡検査は必要とわかっていても、

気が進まない方が多いです

大腸カメラは、検査日の午前中に下剤を飲んでお腹を空っぽにする準備が必要ですし、胃カメラは喉がつかう人が多いでしょう。当院では麻酔をかけての検査も可能ですので、スタッフにお伝えください。経鼻カメラも選べます。

またどうせやるならと、胃と大腸を一度に検査することもできます。最新の内視鏡機器を使用し、医師の多くは日本消化器内視鏡学会の専門医です。

「腹部のCTやカプセル内視鏡ではどうでしょうか？」

CTでは大きながんは見えますが、小さながんは内視鏡でないと見えな

いですが、大腸カプセルはまだできません。カプセルの検査でも下剤は飲まなくてはいけませんし、その場でのポリップ切除などの治療ができませんので、大腸カメラをやるほうがメリットが多いです。

無理して検査することはないと思いますが、誰しも大きな手術はしたくないと思います。がんが心配な方は、検査をしてみるとよいと思います。

Ogikubo Hospital Topics

6月29日(土) 大規模災害訓練を行いました



杉並区震度6の大地震を想定した災害訓練を約150名の職員で行いました。写真は赤エリアの様子。



循環器内科 医長 宗次 裕美 医師

井草地域区民センターにて8月24日10時より、循環器内科の宗次裕美医師が、不整脈についての講演をいたします。井草地域区民センター協議会HPよりお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしています。



8月24日(土) みんなの健康講座
やさしい不整脈のおはなし
〈ドキドキ・ドキン・動悸を感じたら〉

理念
患者さんへ
安心で信頼される医療を提供します。
職員へ やり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針
1.急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2.個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3.豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4.経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。